

大学評価学会は、「国際人権A規約第13条問題特別委員会」を設けて、「無償教育の漸進的導入」に係る研究を深めてきました。今回、公開研究会(3)を企画しました。ご参集下さい。

- ・日 時：2015年11月15日(日) 10:00～17:00(予定)
- ・場 所：早稲田大学(早稲田キャンパス) 政治経済学部3号館予定(詳細は後日にHP 続報)
(〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1)
- ・アクセス：J R 山手線 高田馬場駅から徒歩20分
地下鉄 東西線 早稲田駅から徒歩5分
副都心線 西早稲田駅から徒歩17分
都バス 学02(学バス) 高田馬場駅 - 早大正門
<http://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>
- ・内 容：【午前の部：10時～12時】 **大学(法人)経営の在り方**
片山 一義 氏(札幌学院大学)「大学の財務状況と経営分析——北海道を事例に」(仮)
(関連文献)
「日本製鐵株式会社八幡製鐵所の臨時工制度と労務供給請負業」『札幌学院大学経済論集』(6)、2015年。
「パネリスト報告 今日の私大経営の現状と教育(研究)の危機」『北海道経済』(562)、2014年。
*午前の部は、大学評価学会第13回全国大会(2016年5月14～15日、北海道大学)の基調を検討する機会としても位置付けています。

【午後の部：13時半～17時】 **青年期教育・移行支援の在り方**
北河 賢三 氏(早稲田大学)「生活記録運動の歴史的位相」(仮)
(関連文献)
『戦後史のなかの生活記録運動：東北農村の青年・女性たち』岩波書店、2014年。
「戦後農村女性の生活と生活記録：1950～60年代の山形を中心に」『年報 日本現代史』(18)、2013年。
川地亜弥子 氏(神戸大学)「小学校高学年以降における綴方・作文とその指導」(仮)
(関連文献)
「児童期(6歳～12歳頃)における詩や作文による表現の発達的特徴と実践のあり方」
『人間発達研究所紀要』(27)、2014年。
「生活綴方実践におけるリアリズムと教育目標」『心理科学』34(1)、2013年。
コメンテーター：西垣 順子氏(大阪市立大学)
- ・備 考：参加費は不要です。
(資料準備の都合がありますので、参加希望の方は下記までご一報ください。)

基盤研究(B)一般 H27-29 課題番号 15H03474

略称「無償化」科研 [研究代表者 渡部昭男(神戸大学大学院教授)]

午前の部：分担研究者 細川 孝(龍谷大学 教授)

メール・アドレス hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp

午後の部：分担研究者 川口洋誉(愛知工業大学 准教授)

メール・アドレス h-kawaguchi@aitech.ac.jp